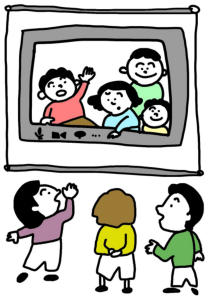


児童生徒による対話型の遠隔合同授業

	<p>今日の授業は、A学校とB学校をつないだ対話型の授業。</p> <p>ところが、最初のうちはどう話したらいいのか、どう反応したらいいかがわからず、沈黙になってしまったり、伝わっているかどうかわからなくて不安になってみんな話せなくなったりします。</p> <p>どうすれば、生徒同士の対話を活発に進めることができるんだろうか？</p>
<p>事前準備</p>	<p>対話型の授業の時は、子どもたちの対話を見える化しておくこと、参加しやすいため、タブレットペンが使えるiPad、ロイロノートなどを使って、それぞれの意見を見える化を行いました。</p> <p>対話型で重要なのは、話し手の子どもの声がしっかり全員に聞けること、そして、話し手の顔が見えること。そのため、子どもの声を拾える場所にマイクをおいて、教室レイアウトを考えました。また、スクリーン上には、教室全体の様子(俯瞰)と、話し手の顔のアップが映し出されるようにしました。</p>
<p>教室レイアウト</p>	<p>高機能マイクスピーカーを教室中央におき、子どもの声が拾えるようにしました。動作確認は事前に必要不可欠！音を拾いづらい時は、iPadをマイク代わりに使うことも可能ですし、ワイヤレスマイクを使うのもよいでしょう。</p> <p>ネット環境が整っていれば、一人一台端末でzoomに入室し、オーディオ切断して、教室内の発言はマイクスピーカーが拾います。カメラだけオンにしておくでギャラリービューで全員の顔がみれます。ただし、その場合、教室にいる子どもたちはモニターばかりをみてしまうのでせっかく同じ教室にいても、一緒にいる感じがしないのが問題点。しかし、お互いの顔がよくみえると話しやすいので、やりやすいほうを選択するといいいでしょう。</p> <p>他のやり方としては、ズームインができるビデオカメラをウェブカメラとして利用すること。話し手がいる時はズームインして顔が映るようにすると、話し手に全員が顔をむけて話ができます。そのためには、カメラを操作する人員がもう一人いると良いでしょう(慣れてくると教師一人で対応できます)</p>
	<p>対話型の授業がはじまりました。</p> <p>対話型の授業では、特に、事前に子どもたち同士のふれあいの時間をつくり、自由に語り合える雰囲気・人間関係づくりを構築しておくことが重要です。話のスタートを切る働きかけを行うことが大事です。</p> <p>たとえば、相手の学校のことを教え合う、天気のこと、暑いのか？寒いのかといった普段の話をはじめにする。すぐに授業の内容をはじめない。他にも、たけのこニョッキなどゲームなどをする。(大谷先生)</p> <p>交流回数が少ないと、なかなか発言しにくいいため、授業の中でウォーミングアップ的な活動も必要ですし、日々の実践を行う中で、対話しやすい関係性を構築する必要があります。</p>

対話型の授業のおもしろいところは、子ども自身で自主的に進めることができる点です。サンホセ日本人学校では、子どもがファシリテータになってみんなの意見を聞いていきます。対話型の授業では、子どもが、色々な考え方に触れることができるため、広がる学び、つまり、水平的な学びができます。

対話型の授業では、多様な意見に出会えることがその強みです。そのため、普段は小規模で授業をされている学校では、遠隔で他校とつなぐことで、さらに多様な子どもと話すことができます。

同じ年代の子どもたちと一緒に授業をすることが励みになることも多くあります。お互いがロールモデル的存在になったりもします。

たとえば、中2の国語の授業で、司会を行ったり、ファシリテートする経験をするができる。(少人数学校だとそれがなかなかできない)。相手校の子どもが他の子どもに質問したり、話を促したりするのを見て、その影響を受けるなどがあった。ACの子たちが使う言葉などで、SJの子には新しいこともある。(宮本先生)
中2の子が「もう少しわかりやすい言葉でいってくれる?」ということで暖かい雰囲気になった。

一緒にいて楽しい、一緒にできることで、やりたいこと、知りたいことができてくる。そういった関わりの中で、協力して課題を解決しようという気概が生まれてきます。(AC: 田原先生)

たとえば、サンパウロ中1中213名とリオ1名が4つのグループにわかれて実施。相手3人こちらが1名のグループ。Google Slideをつかってプレゼンをつくっていた。そのプロセスで、「アニメーションいれたらひとつにまとめられるね」とやってくれることで、スライドの作り方などを学んでいった。発表をみて、相手のいいところをみながら、自分のプレゼンをより良いものにしていった。一つのことを共同しながらよりよいものにしていこうという場面があった。(吉村先生)

だんだん慣れてくると、自分たちの意見が言いやすくなってきます。初めは、どう話せばいいか、どう反応すればいいか、と試行錯誤かもしれませんが、リアルタイムで意見を言い合い、すぐに反応(フィードバック)が返ってくるので、状況に応じた、柔軟な対応ができるようになっていきます。

対話型授業では、JamboardやGoogle Slide、Padletなどを使うことで、子どもたちの対話を支援することもできます。「何を話していたっけ?」となった時に、どこに戻ればいいのか、対話の軸が何かを常に意識できるようにしておくとういでしょう。また、対話の目的を示すことで、目的にそった対話を促すこともできます。

一人一台タブレット上での対話型授業ではブレイクアウトを使った方法があります。

- ジグソー法
- 問いこに基づいた対話セッション
- ワールドカフェ
- ポスターセッション
- オープンダイアローグ型

対話することも目的になりそうですが、対話を通して作品をつくるということもできるでしょう。絵や音楽、図工での作品作り、Scratchによるプログラム作り)や発信(webページ作成等)、行動につなげていけそうです。

対話型の授業では、Zoomだけでなく、いろんなICTツールと組み合わせることで実施ができそうです。たとえば、VRの活用。Clusterなどメタバースも今後利用できそうです。

す。
また、自分のオリジナルキャラクターを作って、Vtuberとして参加することもできそうです。

Q&A

(1) 広がりすぎてなかなか収集がつかない。意見の言い合いでおわってしまう。どのようにまとめていくか、学びをつなげていくかが課題。

一つのファイル(google slide, google spread sheet)をみんなで共有することで、相手校の作業状況がわかる。(リオ)

問いの焦点化。考えるべき問いをはっきりさせることで、広がりすぎない。チャート(思考ツール:もぐらチャート)の中で、問いについての部屋を使って、それに沿っていくと話がぶれなかった。それをまとめるために、ルーブリックの到達点を使用した。(サンホセ)

→このおかげでなかなか発言できない人も、発言することができた。(アグアス)

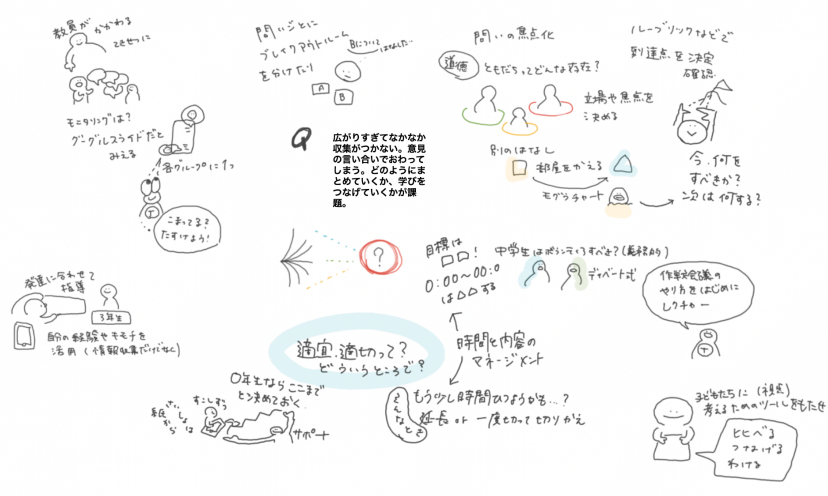
同じ意見の人とペアを組んで、討論をさせた。(アグアス)

iPadとかの情報だけではなく、自身の経験や気持ちを活用する。

時間と内容のマネジメントをする。教師が時間配分の支援をすることも大切。

最初は紙を使用し、その後keynoteなどのアプリを使用する。ステップをふむ。

比べる、つなげる、わかる(思考ツール)というように、項目を分けて、思考をまとめる。



- (2) 意見を活性化させるために手立てが必要
- (3) 単発ではなく継続するのが望ましい
- (4) ハウリング。オンライン以外の時にも繋がれるような工夫があるのではか。
- (5) 交流校の児童数の違いによるグループ化の工夫
- (6) ブレークアウトルームに別れた後の活動内容の把握が難しい。

具体事例

<AC>
 ・子どもたちの日頃の授業でのつながり→回数を増やす
 ・教師同士の連携 全体では困難→低学年部、高学年部等

	<p><SJ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションカード等でファシリテーターとしての資質能力を向上させ、子ども中心の話し合いを実現させる。 ・シンキングツールの活用で思考の流れをスムーズに。 ・特定の授業フォーマットを内容に合わせて繰り返し実施し、手立てに慣れさせる。 ・グラレコを活用し、分かりやすい記録を。また、児童生徒の気持ちを表すカードに。 ・教師の画面をオフにするか、ポイント等をバーチャル背景で提示することで、話しやすい雰囲気 ・ブレイクアウトによるグループ学習。多人数なら特にジグソー法が面白い ・ビデオ交流を混ぜることも可能ではないか。 <p><RJ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレイクアウトルームの効果的な活用。目的をもったグループ作り。 ・話し合いに慣れないうちは司会者、発表者、質問者など役割を明確化するなど、活動をスモールステップで進化させていく。 ・意思表示をするための側面を色分けした三角柱のようなツールを児童生徒に持たせ、色で意見分布を互いに把握し合う。 <p><SP></p> <ul style="list-style-type: none"> ・機材をいくつか準備し、授業が途切れないようにした。 ・見通しが必要;大きなテーマがあって、次回の予告。学びのシリーズ化が必要。全体のテーマを決めて、次回の予告アナウンスも大切。 ・校内で日常的にオンラインリアルタイム対話を経験する。総合的な学習の時間を使いオンラインで対話型レクを行う。
--	---

11:00-11:10 挨拶+映像提出の確認(後藤)

11:10-11:20 パターンランゲージのロゴを3つから1つ選ぶ→4人に決定

[ロゴ](#)

<https://sugukiku.com/p/new?t=476468>

11:20-11:35 報告書冊子の進め方

11:35-11:55 対話型レイアウト

資料

<https://docs.google.com/document/d/1pBygF5nLbuGmjkeTxMp41YVD9agS8mCZ443I9ey2PeU/edit>

Jamboard

https://jamboard.google.com/d/1ltzjUkAQJxZSfaXctehdhRO7P4fm_58XIOaaXBRE4c/edit?usp=sharing

11:55-12:00 おわり

<冊子の進め方>

ヒアリングの内容をはじめり→実践→困難→解決のように物語にして、読んだ人がそれぞれの学校でどのように進めていったのかが写真と一緒にわかるような冊子をつくります。冊子は、AG5事務局と、4校に配布でそれ以外は配布しない。ただし、学校の裁量で増刷ができるので、必要であれば各学校で増刷して配布可能。内部資料なので、顔写真は基本使います。→確認

96ページ(40見開きP) 800円程度

- ・ヒアリングのコピペをGoogld slideに準備(関)
- ・その内容を編集 ※必要であれば(各学校)
- ・編集後DLしてレイアウトの調整(関)

サンホセのものを先に進め、次回の研修(11月)でみせます。

→そこで進め方をもう一度確認し、12月から本件スタート(1月下旬に完成)

次 第

- 1 あいさつ など (5分)
- 2 研修 (45分) 岸先生
レイアウト・形態 その④ 対話型
パターンランゲージ ②
ヒアリング・冊子 ①
- 3 各校からの報告についての質疑応答 (5分) <事前資料>
A 学校近況など (地域の様子、児童生徒の動向など)
B AG5/研究関連 (校内、2校間など)
- 4 連絡 (5分)
SP校:10月27日RJSP公開授業に関して
事務局
※日本時間25:40